

実際に機能するBCP規定類の策定とDR（ディザスタ・リカバリ）の構築（4118354）

「BCPの策定やDRの構築事例」を紹介するとともに、「コスト、技術力、構築持続年数、採算等」の観点から現実に則した策定や実装を学習します。この分野は、外部に委託すると構築費用が徐々に膨れ上がるため、「どの分野が自前主義に適し、またはクラウド(DRaaS)に適しているのか」も検討します。

開催日時	2019年2月25日(月) 10:00-17:00
カテゴリー	共通業務（契約管理、BCP、コンプライアンス、人的資産管理、人材育成、資産管理）・セキュリティ・システム監査 専門スキル
講師	石橋正彦 氏 (フィナンシャルシステムプラン株式会社 パートナー) ベリングポイント(現PwC)においてセキュリティ監査人/ベンチマークに従事。 その後、ガートナーにてセキュリティ、BCP/DRの研究業務に従事し現在に至る。
参加費	J U A S 会員/ITC : 33,000円 一般 : 42,000円 (1 名様あたり 消費税込み、テキスト込み) 【受講権利枚数1枚】
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会 (ユニゾ堀留町二丁目ビル2階)
対象	情報システム部門の担当者、防災・災害の担当者、管理部門のIT担当者 職務 : 保守/運用 、 リスクマネジメント レベル : システムエンジニア初級 初級
開催形式	講義、グループ演習
定員	20名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。(2時間1ポイント)
ITCA認定番号	ITCC-CPJU9355
ITCA認定時間	6

主な内容

東日本大震災以降、BCPやIT-BCPの価値観の変化を余儀なくされました。これまで「(机上ベースでの)手順書や運用マニュアルを作ることがBCPの策定」と考えていた企業が被災を機に、考え方を改めています。また、「ディザスタ・リカバリ(DR)が構築できていない企業でも、工夫すればIT-BCPの策定やISO22301(BCMS)の認証取得も可能」と考えていた企業も考え方をええつつあります。

本セミナーでは、「BCPの策定やDRの構築事例」を紹介するとともに、「コスト、技術力、構築持続年数、採算等」の観点から現実に則した策定や実装を学習します。この分野は、外部に委託すると構築費用が徐々に膨れ上がるため、「どの分野が自前主義に適し、またはクラウド(DRaaS)に適しているのか」も検討します。

<内容>

第1部 はじめに

- ・BCPとは、IT-BCPとの違い
- ・DR(ディザスタ・リカバリ)とは
- ・IT-BCPとISO22301(BCMS)とは

第2部 東日本大震災以降のIT-BCPの変遷と事例

- ・東日本大震災 前後のIT-BCP事例
- ・IT-BCPからISO22301(BCMS)を構築した事例
- ・規定類の考え方

第3部 ディザスタ・リカバリ実践

- ・ディザスタ・リカバリの基礎
- ・ディザスタ・リカバリ構築で最低限知っておきたい基礎知識
(ファイル・システム、VOL、mount、フェールオーバー、DHCP等)
- ・ディザスタ・リカバリ構築の変遷

第4部 ディスカッション(演習)

- ・当社のBCPとDR

『実際の社内のBCPとDRの現状をディスカッションする』

第5部 今後の運用

- ・どこまでBCPとDRを実装/運用するのか
- ・クラウドが使えるのか、各種ソリューションやツール類の現状
- ・セカンダリ・サイトやデータセンター事業者の動向